

所報

題字: 武田満之校長(平成9年、野幌中学校)

第156号 令和2年9月16日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 TEL 381-1058

(主な内容)

- ・「走り方教室」モデル授業実施報告
- ・北海道教育研究所連盟研究発表大会
上川大会参加報告

「走り方教室」モデル授業実施報告

9月7日(月)大麻東小学校5年生



斜面を利用して足首のバネを鍛錬する練習



スタートダッシュの練習

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年行っている「走り方教室」が中止となったことから、北翔大学の宮真一准教授が指導する「走り方教室」の授業に解説などを加えたDVDを作製することにしました。そのモデル授業を四反田体育専科教員の所属する大麻東小学校に依頼し、5年生児童55名を対象に9月7日(月)に実施しました。指導は次のような内容でした。

- ① 準備運動
- ② ジャンケンの結果により、それぞれ違う目的地に走り戻ってくる
- ③ 足首のバネを鍛錬する練習・・真直ぐな姿勢、つま先ジャンプで斜面を上る
- ④ 腕振り・腿上げ練習・・手を握らずに開く、腿は腰の高さまで上げる
7秒間、腕を振り続け腿を上げ続ける
- ⑤ 2種類のスタートダッシュの練習と感想発表
・・目線を下げ前傾した姿勢で走る、スタートから顔を上げて走る
- ⑥ 「地面を強く押す」意識でスタートダッシュの練習
- ⑦ スタート3秒遅れの宮先生との走力比べ

遊びの要素を取り入れ指導される宮准教授のペースに引き込まれたとはいえ、暑い中、汗をかきながら何度も何度もスタートダッシュに挑む子どもたちの姿は大変立派でした。

今年度中に「走り方教室」のDVDが完成し、各小学校に配付する予定ですので、是非各小学校では体育授業や校内研修等でご活用いただきたいと思います。

北海道教育研究所連盟研究発表大会上川大会参加報告

令和2年8月28日（金）Web会議システムZoom

第75回北海道教育研究所連盟研究発表大会上川大会は、当初旭川市で開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Web会議システムZoomによるリモート大会となりました。「学びに向かう力等を育成するための指導と評価の在り方について」を演題とした国立教育政策研究所の二井正浩氏の記念講演に参加しましたので、印象に残った内容とリモート初体験の感想をご報告いたします。

《記念講演の印象に残った内容抜粋》

- 「子どもは評価されるものを身に付けようとする。」これは裏を返せば「適切に評価されなければ身に付かない」ということを示している。
- 何を評価するのか。「指導と評価の一体化」と言われてきたように、「指導したものを評価する。指導しないものは評価対象ではない」が原則である。
- 子どもはなぜ通信簿を嫌がるのか。それは、通信簿が子どもの「値踏み」「ランク付け」だからである。評定は、評価の一部であり、選抜の道具である。
- 相対評価の正規曲線は、見方によっては指導の不成功を表している。指導のよし悪しと関係なく評価できるという点においては、相対評価はある種の責任回避システムとも言える。
- 絶対評価の客観性は常に目指すべきものであり、「目標」と「評価規準の明確化」が大前提となる。見方によっては相対評価よりも「教育としての評価」を重視しているとも言える。
- 感性や思いやりは個人内評価であり、「世界で唯一人しか存在しない『その人』を理解する」ことである。
- 自主的、自発的、意欲的など同じような意味の言葉がある。「主体的に学習に取り組む態度」の「主体的」とは、自分の意志と判断によって行動することである。粘り強く学習に取り組むことが意志であり、自らの学習を調整しようとするのが判断である。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の育成には、無条件に面白い、将来的に役立つなど、子どもにとって学習がどのような意味や意義を持っているかという観点が大切である。子どもの自己関与性や自分事をどう実現するかが鍵となる。
- リソース（知的資源）を経験して学ぶ「子どもの学び」と、経験をリソースに学ぶ「大人の学び」は、経験の乏しさと豊富さに起因して大きく違っている。
教職員研修などにおいては、自己の抱える課題や問題など教職員の内発的な動機が大切となる。大人が主体的に取り組むためには、自己関与性や自分事が子ども以上に必要となる。

《リモート大会参加の感想》

- 講演内容を理解し知識を身に付ける手段としては問題なかった。また、自分が見られていないという意識からか、感情の起伏や緊張感もなく、穏当な気分で講演を聴くことができた。唯、刺激やメリハリといった観点では物足りなかった。
- グループの話し合いでは、司会者の指示に従って自分の意見を述べることもできたし、他の人の意見に感想を述べることもできた。唯、意見交流し新たな考え方を生み出そうとする意欲はあまり湧かなかった。
- 情報や知識獲得を主目的にするなら、出向いて参加する手間が省けるので、楽であるし効率が良い。
- 直に対面して行う講演と違って、講師の熱意やこだわりがあまり伝わってこないし、共感も高まらないので、講演自体が強い印象として残らなかった。